

# 北川村地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

## 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

北川村は、高知県の東部、徳島県との県境に位置し、南北に貫流する奈半利川によって村土が東西に二分され、奈半利川の本流、支流流域に集落とともに農地が点在している。面積の95%を山林が占め、農地面積は232ha（田111ha、畑121ha）に過ぎない典型的な中山間地域である。狭小で不整形な田が多く、ほ場区画も小さいことや温暖多雨な気象条件から、水田における土地利用型農業については、生産性、品質面から見て困難である。北川村は全国有数の柚子産地であり1,000t以上の果汁を出荷しているが、単価の高い青果出荷量は70tと少なく収益に繋がっていない。

また、高齢化などによる農家戸数の減少や後継者不足による担い手の問題と併せて、不作付地の増加が大きな問題となっており、今後、北川村の農業を維持していくために、これらの課題への対策が必要となっている。

## 2 作物ごとの取組方針

高齢化等による担い手不足を解消するため、農地の現状を集約した台帳を整備することで新規就農者への情報提供に活用していく。また、新規就農者への研修制度を構築し、担い手の育成に努める。また、中北部では柚子、南部では露地野菜や施設園芸の生産維持・拡大を図ることとする。

### (1) 主食用米

生産数量目標に配慮した作付けを行っていく中で、地場産米の学校給食活用等の地産地消の推進や集落営農による生産コストの低減、省力化に努める。

### (2) WCS用稲

平成25年度においては非主食用米の取組はなかったが、主食用米の需要減が見込まれている中で、地域の畜産農家の需要があるWCS用稲に今年度から取り組んでいく。

### (3) 野菜

#### ①施設園芸

南部地区を中心に行われている施設園芸の品目については、そのほとんどがミョウガを栽培しており、ミョウガを中心として、そのほかの施設園芸作物も含めて施設園芸の産地化を進める。しかしながら、園芸農家も高齢化しており、後継者のい

る農家も少ないため、レンタルハウスの取組や新規就農者の受け入れなど担い手確保の対策を推進する。

## ②露地野菜

露地栽培についてはオクラとシシトウの取組が多い。これらについては柚子の農閑期に収穫できることや比較的高齢者でも栽培が可能であり、新たな初期投資もあまり必要でないことから、今後も安定的な生産が見込まれる作物であり、重点的に産地化を図る。また、その他の露地野菜についても水田の有効活用及び農業者の所得向上の一助となっているため、作付を推進していく。

## ③柚子

全国でもトップレベルの生産量を誇る柚子については、現在約104haの栽培面積があり、今後も本村の基幹作物に位置付けて、特産果樹としての柚子の産地化をより一層進めていく。また、日本で初めてEU諸国に青果の輸出(H24:3t、H25:3t)を行うなど国外にも販路を開拓しており、今後も青果出荷やカラーリング出荷を広げ、国内外ともに積極的な販路拡大に努めていくことで、収益性の高い青果出荷の割合を高め、農家所得の向上に繋げていく。

## (4) その他の作物(果樹・花卉・花木・雑穀・特用作物等)

主食用米の需要減が見込まれる中、主食用米からの多種多様な転換品目の作付について支援を行うとともに、産地化できる作物の掘り起こしを行う。

## (5) 不作付地の解消

現行の不作付地について、高齢農家でも取り組みやすい露地野菜の作付を推進し、不作付地の解消を図っていく。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成25年度の作付面積 (ha)	平成26年度の作付予定面積 (ha)	平成28年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	49.0	46.0	44.8
WCS用稲	0.0	0.7	1.0
オクラ	1.2	1.4	1.4
シシトウ	0.3	0.4	0.4
柚子(畑含む)	104.0	106.0	106.0
その他地域振興作物	4.8	4.8	5.7
野菜	4.7	4.7	5.5
その他(花卉・花木、果樹等)	0.1	0.1	0.2

#### 4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 26 年度 (予定)	平成 28 年度 (目標値)
1	オクラ	所得向上	ア	実施面積	1.2ha	1.4ha	1.4ha
2	シシトウ	所得向上	ア	実施面積	0.3ha	0.4ha	0.4ha
3	柚子	高付加価値化	ウ	実施面積	3.0ha	3.2ha	3.2ha

※「分類」欄については、要綱（別紙 11）の 2（5）のア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。

（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入して下さい。）

ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組

イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組

ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組